

沖縄タイムス 2014年3月24日(月)掲載

3月19日 那覇地区公民館連絡協議会円卓会議 紹介記事

※みらいファンド沖縄は、企画運営助言、司会者・記録者派遣で協力しました

第3種郵便物認可



【那覇】新しい公民館・自治会の魅力づくりを考えようと「若者の目に映る公民館・自治会とは」をテーマにした円卓会議が19日、市中央公民館であった。

若者とつながる公民館に

現状報告や企画提起

那覇地区連絡協が円卓議会

那覇地区公民館連絡協議会が主催したもので公民館の館長やまちづくりコーディネーターら10人がそれぞれの立場で意見を交わした。

市中央公民館の手登根朗館長は「どの公民館にも言えることだが、青年の姿が少ない。訪れるのは高齢者が多く、イベントなどで力仕事も人手が足りない」と現状を報告した。地域サポートわかさ公民館事業部長の宮城潤さんは「若者に必要とされていない公民館の在り方にも問題がある。若者だけでなく市民に必要とされる公民館にしなければいけない」と提起。

那覇市青少年育成課の野底

若者と公民館の関係について議論する円卓会議の参加者

19日、那覇市中央公民館

武光さんは、若者が公民館と接する機会を増やす試みとして、「若者が好きな企画など、目的を持った団体やサークルと公民館がつながることで課題解決できるのではないかと提言した。

松島自治会の西平悟会長

は、3年間で会員を64世帯から155世帯に拡大させたことを説明。「自治会の存続も危ぶまれたが、地域の安心安全と人とのつながりのために、自治会の存在は大事だ」と述べ、若者への情報提供の必要性を訴えた。